

前略、市史編さん室より

旧郷土史刊行から約40年。指宿も変わりました。

郷土史は自治体が出版するそのまちの正式な歴史書です。旧指宿市・旧山川町・旧開聞町の郷土史(旧郷土史)は刊行して25年~40年ほど経ちました。その間、1市2町が合併し今の指宿市が誕生、まちも大きく変わりました。同時に、この40年ほどで指宿のイメージを大きく変えるような歴史的発見もあり、指宿はものすごい場所であることがこれまで以上に明らかになってきたのです。これまでの発見の中から新指宿市史に掲載されるいくつかを紹介します。

指宿がものすごい所だと示す新たな事実とは？

①指宿には3万年も前から人が住んでいた！

小牧^{にしたらがさこ}の西多羅ヶ迫遺跡では3万年前の人々が使った石器が多数発見されました。旧郷土史には本市の最も古い遺跡として2万年前の遺跡が掲載されましたが、なんと1.5倍も歴史が古くなったのです。



西多羅ヶ迫遺跡

②発掘調査員も驚き！ポンペイ遺跡みたいな発見

敷領遺跡では874年の開聞岳の噴火で埋もれた建物が発見されました。建物にはかまどがあり、なんと鍋がかかったままの状態で見つかったのです。



鍋がかかったままのかまど

③幕末に大砲で使う火薬の材料が生産されていた！

江戸時代の終わり、欧米諸国の脅威に対応するため、山川港をはじめとする沿岸部に鹿児島藩が多数の砲台を設置しました。火薬は成川の工場で製造されましたが、最も重要な材料の硝石はヨーロッパの技術を導入した湊地区の施設で生産されたのです。このことは、当時の指宿郷役人である前田勘助が日記に書き残していたことで分かりました。

④指宿神社は異国船を追い払うために建て替えた！

弘化4年(1847)に藩主島津斉興の命令で指宿神社の社殿などが建て替えられました。その時に奉納された扁額には神仏の徳の力に相手が従って自ら退くという意味の「敵国降伏^{てきこくこうふく}」と書かれていました。外国船の脅威の最前線だった指宿。藩主の強い祈りが今も残されているのです。



指宿神社の扁額

指宿市の古い資料や写真があればご一報を

- ・古い文書・絵・地図・日記・手紙
 - ・地域や暮らしの思い出・言い伝え
 - ・明治から昭和の風景や行事などの写真・映像
 - ・市内の団体などが刊行した記念誌
- ▶池田校区の久保田さん(写真右)から『薩摩半島史蹟名勝寫真帖』(昭和17年刊行)の情報を頂きました。



閩市史編さん室市史編さん係 ☎080-8210-1656

学校・地域応援活動

人づくり つながりづくり 地域づくり

No.22

赤ペン先生が児童を応援！

「学校での赤ペン先生のボランティアは脳トレにもなるから楽しいです」と話すのは約10年前から活動に参加する秋元美代子さん(北十町)。柳田小学校は、児童の基礎学力定着のために児童の学習を助けるボランティアを招いて毎月第2土曜日に授業を行っています。この日は秋元さんの他、田原迫正十さん(温湯)、保護者の原あすかさん(玉利)が招かれ、5・6年生の算数の学習に協力しました。5年生はかけ算わり算、6年生は数式の計算などに取り組み、児童が理解するまでボランティアが丁寧に教えました。



丁寧に教える秋元さん(左)と田原迫さん(右)

閩生涯学習課社会教育係 ☎③1023

子どもたちの感想

- ・5年生の前村あいりさん(弥次ヶ湯)「ボランティアはとても優しく、分かりやすく教えてくれるのでとても楽しいです」
- ・5年生の元脇裕太さん(温湯)「地域の人から教えてくれるのは安心感があるし、仲が深まるのでとてもうれしいです」
- ・6年生の吉永碧良さん(二月田)「難しい所を分かりやすく教えてもらえるのでうれしいです」
- ・6年生の田畑勇人さん(田良)「地域のボランティアが教えてくれるのは新鮮な気持ちでやる気が出ます」

ボランティアの感想

- ・秋元美代子さん「ボランティアで関わった子どもが町であいさつをしてくれるからうれしいです」
- ・田原迫正十さん「自信をもって教えるために事前にポイントを押さえるなどしていきたいです」
- ・原あすかさん「自分の子どもが通う学校の様子が分かるし、学校と地域で異なる子どもの姿が見られるのが楽しいです」